

第2回NASDA/CNES共催
日仏宇宙協力シンポジウムの開催結果について

平成11年3月3日
宇宙開発事業団

1. シンポジウム開催の経緯

- (1) 平成8年11月、内田理事長及びCNESベンスーサン総裁は両国の首脳のご臨席のもと「宇宙開発計画分野に於ける長期協力の準備に関する機関間取決め」を締結した。
- (2) この取り決めに基づき、また、フランスに於ける日本年の公式行事として、平成9年5月にパリで第1回日仏宇宙協力シンポジウムが開催された。
- (3) 第2回シンポジウムは地球観測及び宇宙輸送を主要分野として、また日本に於けるフランス年の公式行事として、平成11年2月、日本で開催することになった。

2. 開催目的

日仏の宇宙開発の専門家間で、情報交換と活発な議論を行い、具体的な協力の可能性を見いだす。

3. 開催日時、場所及びプログラム

(1) 日時

平成11年2月24日(水)～26日(金)

(初日のEORC/EOC及び三菱重工(名古屋)のテクニカルツアーを含む)

(2) 場所

ホテル インターコンチネンタル 東京ベイ

(3) プログラム

別添一のとおり。

4. 開催結果

(1) 参加者 約300人(内、仏側から約70人)

(2) 結果概要

地球観測及び輸送系の分野ごとに作業部会(WG)を設置し、各WGは緊密に会合を持ち、平成12年度にフランスで開催予定の次回NASDA/CNES会合に検討結果を報告することになった。

また、次回のシンポジウムについては、両機関で今後検討することになった。

なお、各分科会の結果は、別添一、二及び三のとおり。

以 上

第2回日仏宇宙協力シンポジウムプログラム

第1日目：2月25日、木曜日

全体会議（オープニング）

開会挨拶 内田理事長、ベンスーサンCNES総裁
来賓挨拶 池田科学技術庁研究開発局長
講演 コロバニ仏教育研究技術省技術局長、船橋科学技術庁研究開発局宇宙政策課長、鈴木（社）経団連宇宙開発利用推進会議企画部会長、ブレトン仏航空宇宙工業会宇宙業務部長

1. 地球観測分科会（進行役：稲田国際部長）

吉村理事及びフェルースCNES地球科学・応用計画局次長講演

1. 1 災害監視セッション

（共同議長：坂田地球科学技術推進機構長、マンジャンCNES地球観測研究部応用技術主任）

2. 輸送系分科会

（共同議長：長洲元航空宇宙技術研究所長、ドートリア CNES輸送局長）

2. 1 極低温上段ロケットセッション

2. 2 再使用型宇宙機セッション

第2日目：2月26日、金曜日

地球観測分科会（続き）

1. 2 地球観測データ利用セッション

（共同議長：森山主任開発部員、マンジャン CNES主任）

1. 3 将来協力セッション

（共同議長：下田東海大学教授、パピヌーCNES大気・気象プログラムディレクター）

全体会議 シンポジウム全体総括

稲田国際部長、プラタールCNES国際局長

閉会の辞 ブラシェCNES長官

地球観測分科会

災害監視セッションにおいては、宇宙技術を利用することによる自然災害の監視と軽減を目的として議論を行った。その際、災害多発国をどのように援助するかについての検討を行なうとともに、災害の発生前、発生中並びに発生後に利用される異なる種類の地球観測データの利用について検討を行った。災害軽減のために使われる既存のSPOT等の衛星データやALOSなどの将来衛星データの実用的な利用への詳細な方向について検討することを合意した。

地球観測データ利用セッションにおいては、データ継続性、観測頻度、リアルタイムでの利用が重要であることが強調された。また、データの相互利用のためにデータフォーマットやメタデータの構造、データカタログ、データ品質などの標準化が重要であることを合意した。更にヨーロッパ地域におけるALOS国際データノードをフランスに設置することについての方向性が合意され、1999年6月までに最終決定するための討議を行うこととした。

将来協力セッションにおいては、地球科学研究の成果について討議し、またグローバルな地球環境と自然災害についての理解を深めるための科学協力を推進する決定を行った。

プロジェクトレベルにおける日仏二国間協力が強化されることとなった。地球環境問題に関してADEOS-IIにPOLDER-IIセンサを搭載する協力を継続し、またADEOS-II後継ミッションにPOLDER後継センサの搭載やPROTEUSバスの利用の可能性について討議することとした。自然災害に関しては、災害による被害軽減についてのデータ利用の議論を継続するとともに、DEMETERミッションのために日本の科学利用者の組織と連携を取るとともに、ALOSと連動した小型衛星によるSARインターフェロメトリ応用観測についての合同調査を実施することとした。なお、DEMETER後継ミッションについても検討することとした。

これらの検討を継続するため、「地球観測データ利用促進プロジェクト」及び「将来ミッションプロジェクト」の二つの作業グループが設立された。

輸送系分科会

NASDA及びCNESより、日欧の宇宙輸送開発の現状及び将来について報告がなされ、特に今後の協力分野として極低温上段ロケット及び再使用型宇宙機に焦点があてられた。

極低温上段ロケットのセッションの結論として、日仏間の協力分野として可能性が高いこの分野での技術研究についてNASDA / CNES合同ワーキンググループを設け、情報交換を活発に行うことが合意された。

再使用型宇宙機のセッションの結論として、本分野における研究開発を促進することの重要性、及び日仏協力を積極的に促進することの重要性について認識が共通し、NASDA / CNES間において具体的な協力の議論を行うワーキンググループを設けることになった。

また、両機関は産業界レベルを含め、情報交換及び協力強化の推進に合意した。